

2020年9月7日 全5頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（9/7号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り<sup>1</sup>

経済調査部 エコノミスト 山口 茜  
研究員 和田 恵

## [要約]

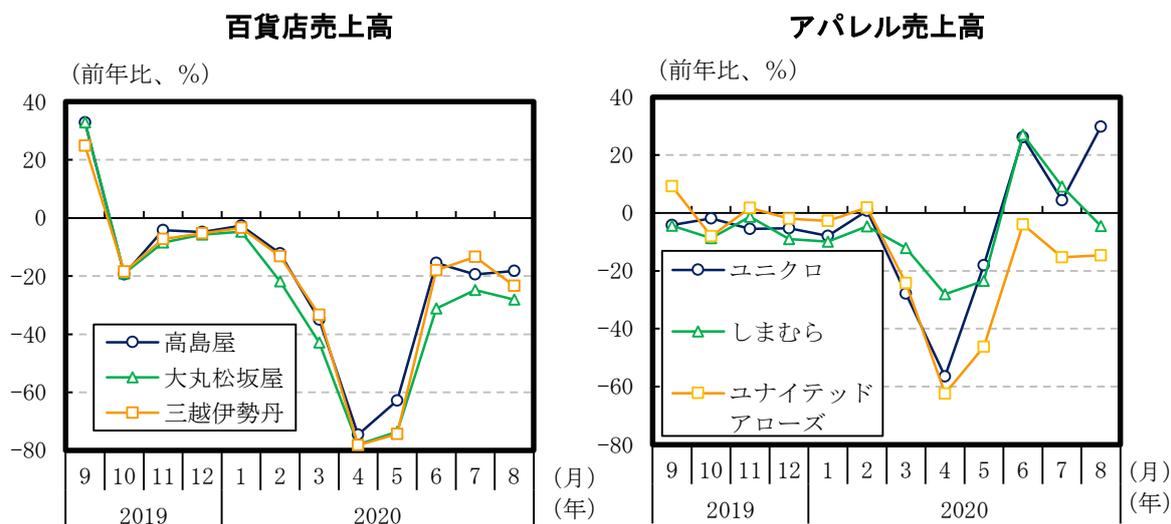
- 8月の消費は、7月から小幅に減少したとみられる。財に関しては、業態によってまちまちであった。家電量販店やホームセンターの売上伸び率は7月から上昇した一方、新車販売台数は減少した。また、百貨店やスーパーは概ね7月並みで、アパレルは企業によって明暗が分かれた。他方、サービス消費は7月から小幅に悪化したと見込まれる。7月22日に「Go To トラベルキャンペーン」が開始されたものの、感染拡大地域からの帰省の自粛や、学校の夏休み期間の短縮が影響し、新幹線や旅客機など旅行関連需要への刺激効果は限定的だった。
- 【小売関連】8月の大手百貨店の売上は前年比2~3割減程度と、減少率は概ね7月並みであった。8月の大手家電量販店の売上伸び率は前年比+4%程度と7月から小幅に上昇した。特別定額給付金などの効果に加え、猛暑により特にエアコンの販売が好調であった。8月のスーパーの売上伸び率は同+3%程度と7月並みで、ホームセンターの売上は同+10%程度と7月から加速した。
- 【サービス関連】新幹線の8月の輸送量は前年比7~8割減程度と7月から悪化した。旅客機に関して、8月の輸送量はANA、JAL両グループともに国内線で前年比7割減程度、国際線で同95%減程度だった。9月は国内線の約4~5割、国際線の約9割が運休する予定である。

<sup>1</sup> 本稿は、速報性の高い個社データ・業界統計・POS データを基に、足元の消費動向を確認する定期レポートである（2020年4月初めから公表開始）。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の8月既存店売上高は前年比2~3割減程度と、減少率は概ね7月並み。
- ◆【アパレル】8月既存店売上高の前年比伸び率は、しまむらは7月から低下、ユニクロとユナイテッドアローズは概ね7月並み。ユニクロは夏物商品やマスクが好調で7月から上昇。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

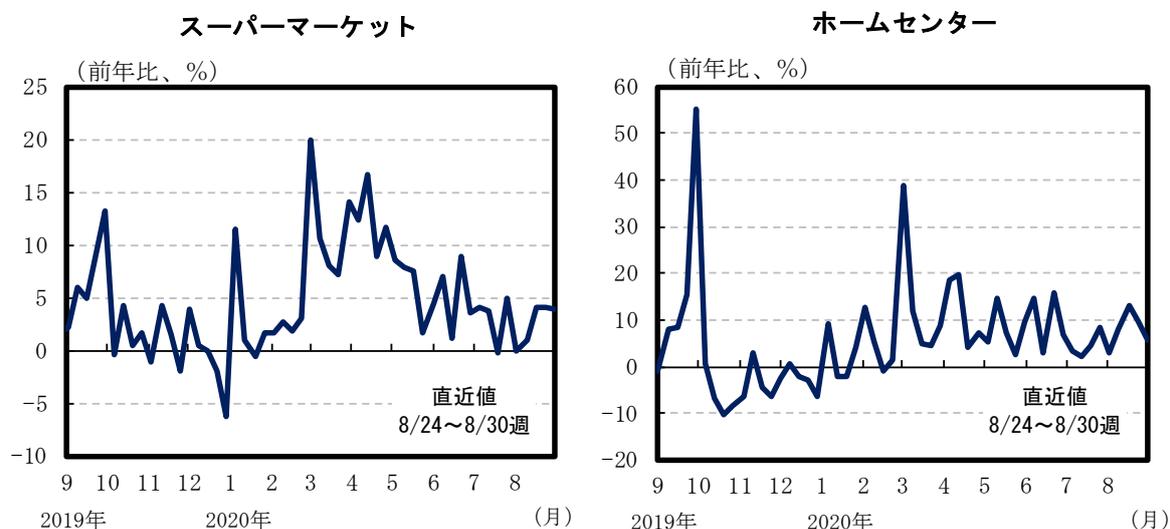
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】8月の売上伸び率は前年比+3%前後と、主力の食品（同+5%前後）とともに概ね7月並み。
- ◆【ホームセンター】8月の売上伸び率は、前年比+10%前後と7月（同+5%前後）から加速。特に雑貨が好調。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

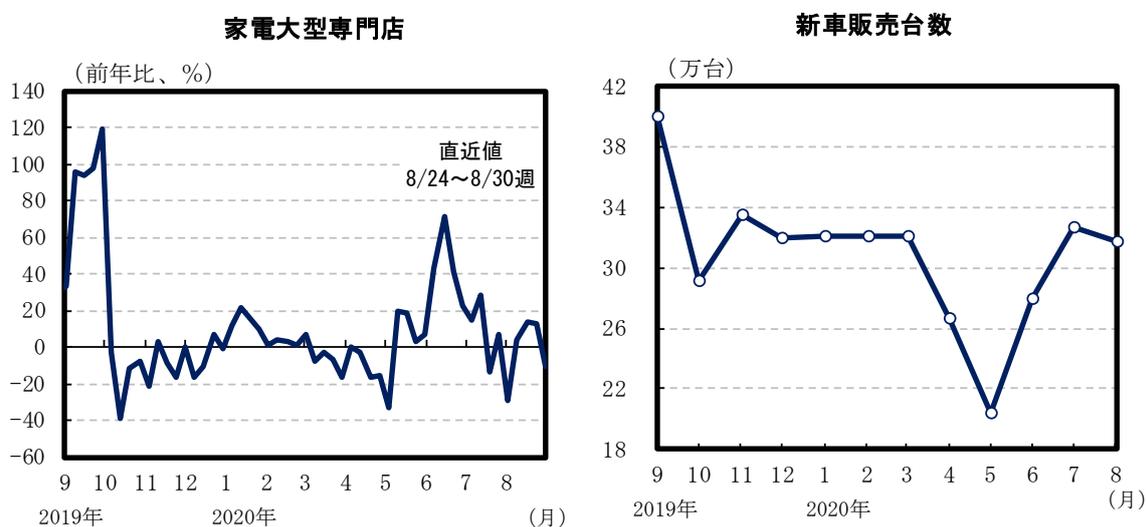


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】8月の大手家電量販店の売上伸び率は前年比+3.8%と7月（同+2.0%）から小幅に上昇。猛暑でエアコン販売が好調だったこと等が全体を押し上げ。
- ◆【自動車】8月の新車販売台数は7月から1.0万台減少（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。

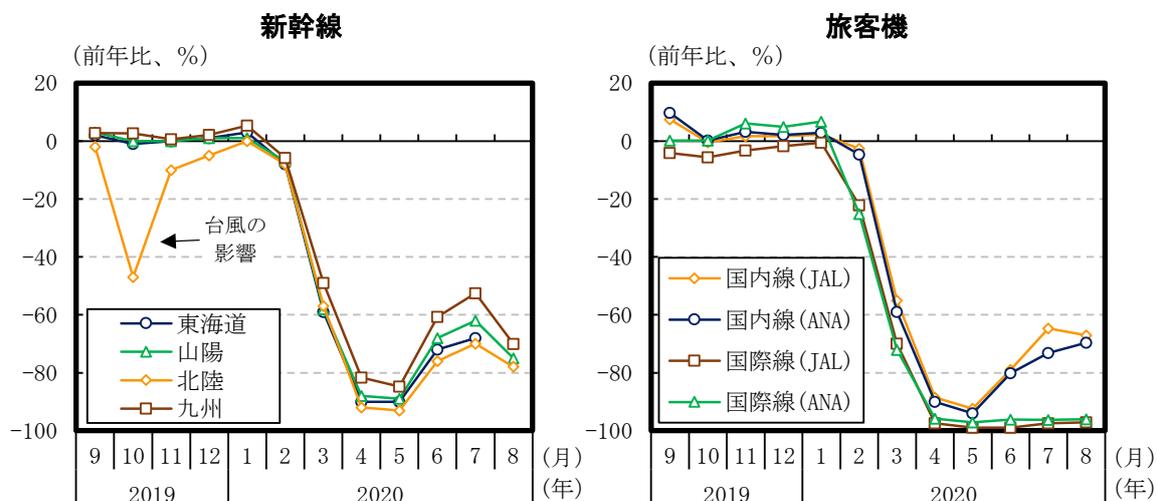
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

### <サービス関連>

- ◆【新幹線】8月の輸送量は前年比7~8割減程度と7月（同5~7割減程度）から悪化。
- ◆【旅客機】ANA、JAL両グループの8月の輸送量は、国内線で前年比7割減程度、国際線で同95%減程度。9月は国内線の約4~5割、国際線の約9割が運休予定。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



(注1) 新幹線の8月分は九州が24日まで、東海道が26日まで、その他は28日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】7月の外国人宿泊者数（宿泊日数ベース）は、6月と同様にほぼゼロで推移。引き続き入国制限を行っていることから、8月も同様の結果を見込む。

7月の日本人宿泊者数は前年比5割減程度と6月（同6割減程度）から改善。8月は7月と同程度と予想。新幹線や旅客機の利用状況を踏まえると、遠距離の旅行は減少を見込む。一方、近距離の旅行はGo Toキャンペーン等により増加を予想。

- ◆【外食】7月上伸び率は前年比15%減程度と

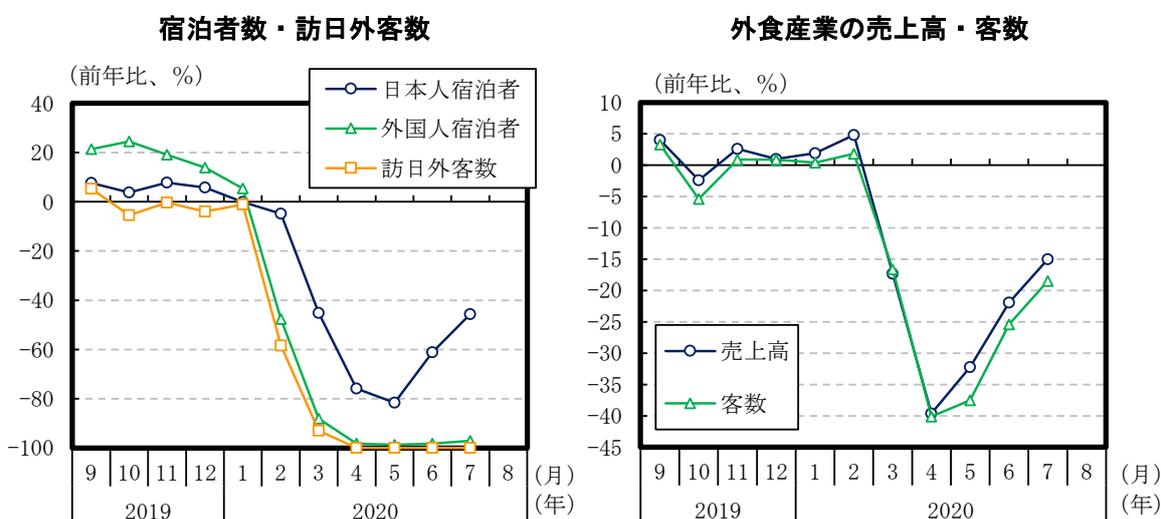
6月（同約20%減程度）からマイナス幅が縮小。

立地・業態間で回復度合いのばらつきが大きく、

繁華街に立地する店舗や酒を提供する業態は他と比べて回復が鈍い。

JCB消費NOW等のデータに基づくと、8月は7月から小幅な悪化を見込む。

図表5：宿泊者数・訪日外客数／外食産業の売上高・客数



(注) 宿泊者は宿泊日数ベース。

(出所) 観光庁、日本政府観光局（JNTO）、一般社団法人日本フードサービス協会統計より大和総研作成

<参考：Google 社の位置情報データ>

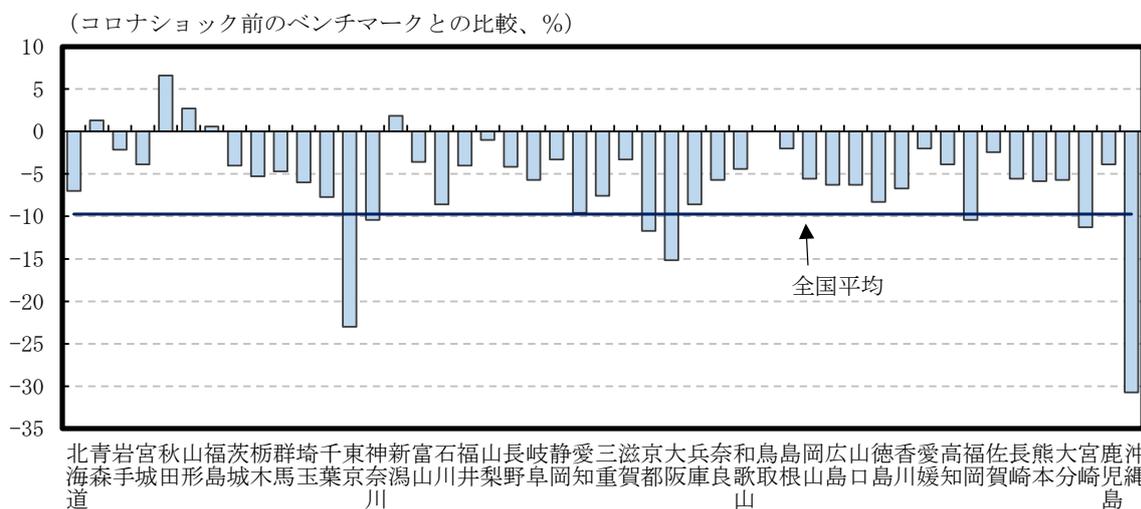
図表 6-1：小売・娯楽施設の入出



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 6-2：小売・娯楽施設の入出（8/26～9/1 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成